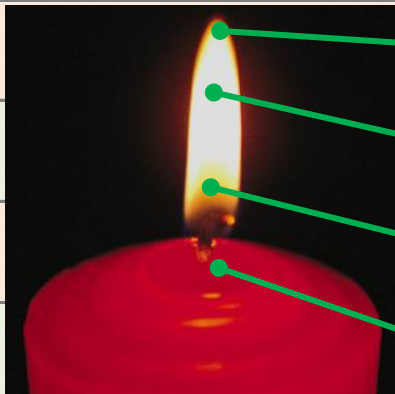







〔テスト範囲になる内容〕 ★気になる言葉やわかりにくいものは、学校の教科書でも調べてみましょう。  
 ものの燃え方…燃えて出る物質の性質、有機物と無機物、燃焼による気体の移動、ろうそくの燃焼のしくみ  
 実験器具…試験管・ビーカー・こまごめピペット・フラスコ

言葉	言葉の説明
燃焼	光と熱を出しながら、激しく酸素と結びつくこと。
酸素	助燃性（じょねんせい）があり、物が燃えるのに必要な気体。空気中の約21%をしめる。
有機物	炭素をふくみ、燃焼して水と二酸化炭素を発生させるもの。砂糖、油、ロウ、プラスチックなど。
無機物	有機物以外のもの。炭素そのもの（黒炭や活性炭など）や二酸化炭素は、炭素をふくむが無機物なので注意。
完全燃焼	十分な酸素がある状態で燃焼すること。有機物が完全燃焼すると、二酸化炭素と水を発生させる。
不完全燃焼	酸素が不十分で、燃焼しきらないこと。有機物を不完全燃焼させると一酸化炭素を発生させることがある。
ちっ素	空気の約78%をしめる気体。ちっ素100%の気体中では、ものを燃焼させられない。
二酸化炭素	有機物や炭素を燃焼させると発生する気体。空気中の約0.04%を占める。
一酸化炭素	有機物が不完全燃焼して発生する気体。人体にとって強い毒性を持っているため非常に危険。
ろうそく	ロウでできた、火をつけて使う道具。燃えるときに酸素を使い、二酸化炭素や水蒸気が発生する。
スチールワール	糸のように細くした鉄を丸めたもの。燃えるときに酸素を使うが、二酸化炭素や水蒸気は発生しない。
燃焼によるまわりの気体の移動	ほのおによって熱せられた空気は、上昇（じょうしょう）していく。そのため、酸素を送ってものを燃焼させ続けるためには、もの下から空気を送ると良い。ガスバーナーの空気調節ねじも、筒の下についている。 例）ガスコンロ、かまど、キャンプファイヤーの木の組み方 など

### ろうそくの燃焼のしくみ

	外えん	ほのおの外側で、完全燃焼している。全体をおおっている。内側に内えん部分がある。最も温度が高いのは、先端（せんたん）よりやや低い位置である。
	内えん	ほのおの内側でやや酸素が不足しているため不完全燃焼。ロウの炭素のつぶが燃えて光るため、きらきらして見える。
	えん心	液体のロウがしんにしみて、さらに熱されて気体になる。ろうそくでは気体のロウが燃えて光っている。
	液体のロウ	熱でとけたロウがたまっている。そのため、ろうそくをつかっているとしんのまわりがくぼんでくる。液体になったロウがしんに吸い上げられる。

### 実験器具

試験管	ビーカー	こまごめピペット	丸底フラスコ	三角フラスコ
				
科学実験のときに、薬品を入れて使う。液体をまぜるときには、口の方をもって底を回すようにふる。	科学実験のときに、薬品を入れて使う。目盛りは真横から見る。	科学実験のときに、ビーカーやフラスコに液体を入れるのに使う。赤いゴム球を押して、液体を出し入れする。	科学実験のときに、薬品などの液体を入れて使う。底が丸いので、火で加熱するのに適している。	科学実験のときに、薬品などの液体を入れて使う。底が平らなので、置いて使うのに適している。